

MCWEL 介護保険 V2

# リモート審査会 ご提案

富士通株式会社



電子審査会NEXT マスコットキャラクター「でんしか」

新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言を踏まえ、厚生労働省から新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の具体的なイメージが示されました。「新しい生活様式」では、ソーシャルディスタンスを保つこと、対面での人との会話や地域からの移動による感染リスクに対する対策が示されています。介護の認定審査会においては、審査員が密室にて集合し、対面で長時間に渡り要介護認定に関する審査を行う事になり、感染へのリスクが危ぶまれております。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、従来の集合形式の審査会ではなく、リモート（遠隔）での審査会が注目されています。要介護認定事務における認定審査会についても、リモートでの開催に対し、お問い合わせが増えております。認定審査会をリモートで開催することで、「3つの密」を避けることができるほか、審査会場までの移動に関わる感染リスクを軽減することができます。また、審査会場までの移動時間や資料の郵送費を削減することもできます。

新型コロナ対策に対する地方公共団体の取組を支援するために、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」が確保されています。

今回、MCWEL介護保険V2のオプション製品『電子審査会NEXT』を用いた、リモート審査会をご紹介します。

是非、交付金のご活用も視野に、リモート審査会システムの導入をご検討ください。

2020年8月

富士通株式会社

<b>1. リモート審査会について</b> .....	P. 4
1.1. リモート審査会のポイント.....	P. 6
1.2. リモート審査会の導入効果.....	P. 7
<b>2. リモート審査会の導入方式</b> .....	P. 12
2.1. 集合形式での審査会開催（従来）に対する課題認識.....	P. 13
2.2. リモート審査会の導入方式 .....	P. 14
2.2.1. リモート形式での審査会(フルリモート方式) .....	P. 19
2.2.2. リモート形式での審査会(事前審査OP配布) .....	P. 22
2.2.3. リモート形式での審査会(スタンドアロン方式) .....	P. 25
<b>3. リモート審査会の運用</b> .....	P. 28
3.1. フルリモート方式の運用 .....	P. 29
3.2. 事前審査OP配布方式の運用 .....	P. 30
3.3. スタンドアロン方式の運用 .....	P. 31
<b>4. リモート審査会のシステム構成</b> .....	P. 32
4.1. フルリモート方式のシステム構成.....	P. 33
4.2. 事前審査OP配布方式のシステム構成.....	P. 34
4.3. スタンドアロン方式のシステム構成.....	P. 35
<b>5. 想定される課題・懸念とその対策</b> .....	P. 36

# 1. リモート審査会について



# 1. リモート審査会について

## 新型コロナウイルス感染症によるリモートでの認定審査会について

新型コロナウイルス感染症の影響でリモート（遠隔）での認定審査会の開催についてのお問合せを多くいただいています。厚労省から令和2年2月28日付「新型コロナウイルス感染症に関わる要介護認定の臨時的な取扱いについて（その2）」として、下記のとおり事務連絡が発出されています。

Q 2 介護認定審査会の委員から、医療機関や介護福祉施設に勤務する者が一同に集まることは避けるべきではないかと申出があったが、介護認定審査会の開催は必ず対面で行わないといけないのか。

A 2 介護認定審査会の開催に当たっては、ICT等の活用により合議ができる環境が整えられれば、必ずしも特定の会場に集まって実施する必要はない。

また、これらの機器の整備等がない場合、例えば、あらかじめ書面で各委員から意見を取り寄せ、電話を介して合議を行い、判定を行うような取扱いとしても差し支えない。

そこで、**MCWEL介護保険V2のオプション製品『電子審査会NEXT』を用いた、リモート審査会**をご紹介します。なお、本事業につきましては既に先行して対応を予定されているMCWEL介護保険V2ユーザー様からお問合せを実施いただき、**厚生労働省から推進および恒久的な対応としての了承**をいただいているものです。

新型コロナ対策に対する地方公共団体の取組を支援するための「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金のご活用も視野に、ぜひご検討をお願いいたします。

**電子審査会NEXTを用いた「リモート審査会」をご提案します**

# 1.1. リモート審査会のポイント

## リモート審査会のポイント



### **3密回避・審査員（医療従事者等）のリスク軽減が可能！**

審査会を集合形式で行う事に対して、審査員からも不安の声があがっていると全国のユーザー様から伺っています。審査員の感染は医療・介護従事者のさらなる不足を招き、医療崩壊を引き起こす恐れがあります。また、二次感染による高齢者への感染へのリスクが高まることも懸念されます。リモート審査会はこういったリスクを回避する手段として有効です。



### **介護認定事務の負荷軽減に貢献！**

電子審査会NEXTを導入することで、審査会資料の紙の印刷や郵送費を削減することができます。また、必要な情報をワンクリックで確認できるため審査会の時間短縮が図れます。審査会資料で生じる紙を削減することでCO2排出削減効果も期待できます。



### **「新しい生活様式」に対応した認定審査会の在り方！**

厚生労働省から新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の具体的なイメージが示されました。新型コロナ対応交付金の対象事業にも「新しい生活様式への対応」と明記されていますので、交付金の活用も視野にご検討をお願い致します。

# 1.2. リモート審査会の導入効果

## 審査会をリモート開催することによる「3つの密」の回避

認定審査会は、審査会場に審査員が集合し行われますが、密閉、密着、密接の「3つの密」が発生するリスクが極めて高いといえます。新型コロナ感染により、医療従事者や介護従事者の不足に拍車がかかり、医療崩壊、介護崩壊を招く恐れがあります。また、審査員は高齢者との接触機会が多く、高齢者への二次感染のリスクも高いと考えられます。

### 従来の審査会

会議内容の機密性が高いため、密閉した空間に事務局員と審査員が集合し、密接した距離で議論（会話）が行われる



密閉  
密着  
密接

### リモート審査会

#### 審査員：自宅や職場で審査

- ・審査員は審査会会場に集合せず
- ・会話はWeb会議システムを通じて



審査会をリモート開催することで、「3つの密」を回避します

# 1.2. リモート審査会の導入効果

## 審査会場までの移動に関わる感染リスクの軽減／移動時間の削減

審査会場は庁舎内に設置されることが多く、審査員は車や公共交通機関を使って会場まで移動します。地域によっては、遠方からの移動や他市町村から移動するケースがあり、長時間の移動により感染リスクは高まります。

### 移動に伴う感染リスク

公共交通機関は不特定多数の方が利用します。車内での混雑状況によっては周囲との距離を確保することが難しい場合も多く、また、審査会の開催時間は決まっているため、混雑していない時間や時差で会場に移動する事も難しいと想定されます。リモート審査会の導入により移動による感染リスクを抑制し、移動時間削減による業務効率化も可能となります。



移動による感染リスクを抑制し、働き方改革にも貢献します

# 1.2. リモート審査会の導入効果

## 審査会資料（紙）の準備にかかる事務負荷の軽減

電子審査会NEXTを活用することで、審査会資料を大量に印刷する手間から解放されます。また、審査会の直前でも、簡単に審査会資料の差し替えが可能です。

### 審査会資料の作成

MCWEL介護保険システムから審査会事前準備機能を使って、審査会情報を出力し、電子審査会システムに取り込むだけ、簡単なオペレーションで審査会の準備が完了します。



審査会の電子化により、事務負荷軽減に貢献します

# 1.2. リモート審査会の導入効果

## 可読性の向上による審査時間の短縮

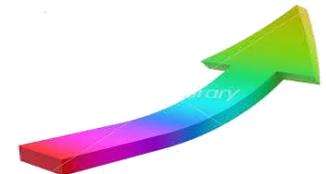
大量の審査会資料から目的の情報を探すため、審査が煩雑になりがちです。また、審査結果を審査会終了後に別途登録する必要や審査会資料の保管・破棄が必要という課題を電子審査会システムにより解決します。

### 審査会資料の作成

電子審査会システムは、可読性が高く目的の情報を一目で確認でき、審査会を進めながら審査結果を登録し、審査終了後は登録したデータを介護保険システム本体に取り込むことで、全ての作業が完結します。

	紙の審査会資料で運用	電子審査会で運用
1審査会の審査人数	30人	
1審査会の平均開催時間	60分	45分
1対象者の平均審査時間	120秒	90秒

25%削減



※紙運用から電子審査会に切替えた自治体様の実測値

可読性の高い審査会資料で審査効率を高めます

# 1.2. リモート審査会の導入効果

## ペーパーレス化の促進

電子審査会NEXTは、「IT活用による環境負荷低減」を推進するための製品であり、審査会用紙やプリンタの使用を控えることで、CO<sub>2</sub>排出量を削減することができ、地球温暖化対策をはじめとするお客様の環境負荷軽減に貢献できます。

### CO<sub>2</sub>排出量を削減と環境への寄与

政府が進めるデジタル・ガバメント実行計画の中でも、ペーパーレス化が推進されており、合わせて手続きの見直しやBPRを並行して行う事とされています。また、日本は、パリ協定の締結国であり、CO<sub>2</sub>排出削減に取り組み、地球温暖化対策と経済成長の両立を目指す必要があります。

※常緑樹の本数換算の出典[林野庁HP参照]

審査会資料2枚×30人（審査員5人分+事務局職員1人分）  
 ×30人（審査会あたりの被保険者数）  
 ×200回（年間審査会開催数）  
 ※紙1枚当たりのCO<sub>2</sub>排出量を0.00976kgで計算



※申請件数年間6,000件とした場合の試算 [人口15万人 高齢化率23%モデル]

ペーパーレス化の促進により印刷コスト削減、環境にも寄与します

## 2. リモート審査会の導入方式



## 2.1. 集合形式での審査会開催（従来）に対する課題認識

事前審査のための紙配布・集計、集合形式での審査会に課題があると理解しています

▶ 審査会資料（紙）を事前に配布、審査会当日は審査会会場に集合



「リモート審査会」で業務効率化と3密回避を実現します

## 2.2. リモート審査会の導入方式（ご提案）

### リモート審査会の導入方式を3パターンご用意しています

導入期間や自治体様のセキュリティポリシーに応じて選択できるよう、3つの導入方式を用意しています。希望される運用、セキュリティポリシー、同時開催合議体数・審査員数等に応じて方式を選択ください。

3密回避	審査会 事前準備 効率化	ペーパーレス	審査会 時間短縮	コスト	導入 期間
可	大	可	大	個別	個別
可	中	可	小	中	小
可	-	-	小	低	小

認定審査会のニューノーマル

#### ①フルリモート方式

審査員の職場でも操作できる

#### ②事前審査OP配布方式

安価で素早く導入できる

#### ③スタンドアロン環境方式

ご要件に合わせて方式を選択ください

## 2.2. リモート審査会の導入方式

### ①フルリモート方式：現行運用・精度を踏襲可能なニューノーマルの審査会

概要	電子審査会NEXTをインターネット接続環境上に配置し、各審査員が職場や自宅のパソコンからインターネット経由で電子審査会NEXTを使用する方式
導入形式	パブリックなネットワーク環境を介して、審査会を実施します。審査員は、RemoteAppの機能を利用して電子審査会の画面を共有するため、実際に端末にインストールされているかのようにシステムを利用できます。 審査会資料の印刷や配布、データ配信などの手間から解放され、配送物の郵送費などを削減できます。
審査員によるシステム上での事前審査	可（審査結果登録および登録結果の事務局側事前確認もシステム上で可能）
お客様要望／効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査会を集合形式での実施を回避</li> <li>・現行の認定審査会の精度を落とさず運用したい</li> <li>・情報漏えいリスク回避のため、審査会データが審査員の手元にわたらないようにしたい</li> <li>・紙の印刷、配布は行わずペーパーレス化を推進したい</li> <li>・審査会情報は、限られた範囲内で利用したい</li> <li>・審査会において、審査員の端末を活用したい</li> <li>・審査員の事前審査結果を合議体開催前に確認したい</li> </ul>
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット環境設置場所（庁内環境／データセンタ他）</li> <li>・初期の環境構築経費／期間が必要</li> <li>・個人情報審議会要否（各団体様ポリシーに準拠）</li> </ul>
主な積算項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子審査会NEXT（C/S）、事前審査オプション</li> <li>・インターネット環境（庁内環境・データセンタ他）</li> <li>・web会議サービス</li> </ul>

## 2.2. リモート審査会の導入方式

### ②事前審査OP配布方式： 審査会情報をインターネット環境に設置することへ不安のあるお客様向け

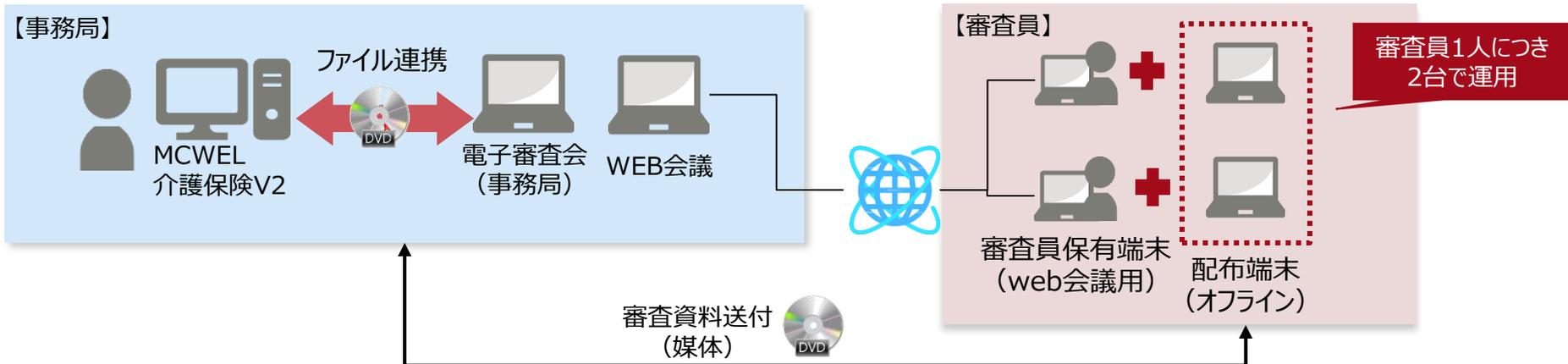
概要	<b>電子審査会NEXTを媒体等で各審査員に事前配布し、各審査員が職場や自宅のパソコンで電子審査会NEXTを使用する方式</b>
導入形式	電子審査会NEXTの事前審査OP（パソコンor媒体）と審査会データをセットで審査員に郵送し、会議はWeb会議で行います。 審査員は手元の電子NEXT事前審査OPを操作しながら、Web会議を通じて審査会を実施します。
審査員によるシステム上での事前審査	可（各審査員による事前審査・入力は可能、審査員が事前入力した情報の共有・事務局確認は不可）
お客様要望／効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査会を集合形式での実施を回避</li> <li>・審査員に自由に審査会システムを操作させたい</li> <li>・個人情報を含んでいないとはいえ、インターネット環境に審査会情報を置くことに対する庁内調整が困難である</li> </ul>
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査員の自宅／職場の端末を利用することに不安がある場合には端末を2台用意</li> <li>・データの紛失対策としてセキュリティ便、流失対策についてはコピーガード機能の媒体用意が必要</li> <li>・事前審査OPおよび審査会資料が格納された端末あるいは媒体を郵送、回収する郵送費が必要※ファイル共有サービス経由での審査会資料データ配信を追加検討中（詳細後報）</li> </ul>
主な積算項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子審査会NEXT（スタンドアロン）、事前審査オプション</li> <li>・web会議サービス</li> <li>・審査員配布用端末（必要に応じて）</li> </ul>

## 2.2 リモート審査会の導入方式の選定について

### 事前審査OP配布方式における審査員保有端末の利用について

事前審査OP配布方式では、審査員が電子審査会NEXTをオフライン端末で利用することとするか、インターネット接続可能な審査員保有の端末で利用するかによって必要端末台数や運用が異なります。ご要件に従いご判断をお願い致します。

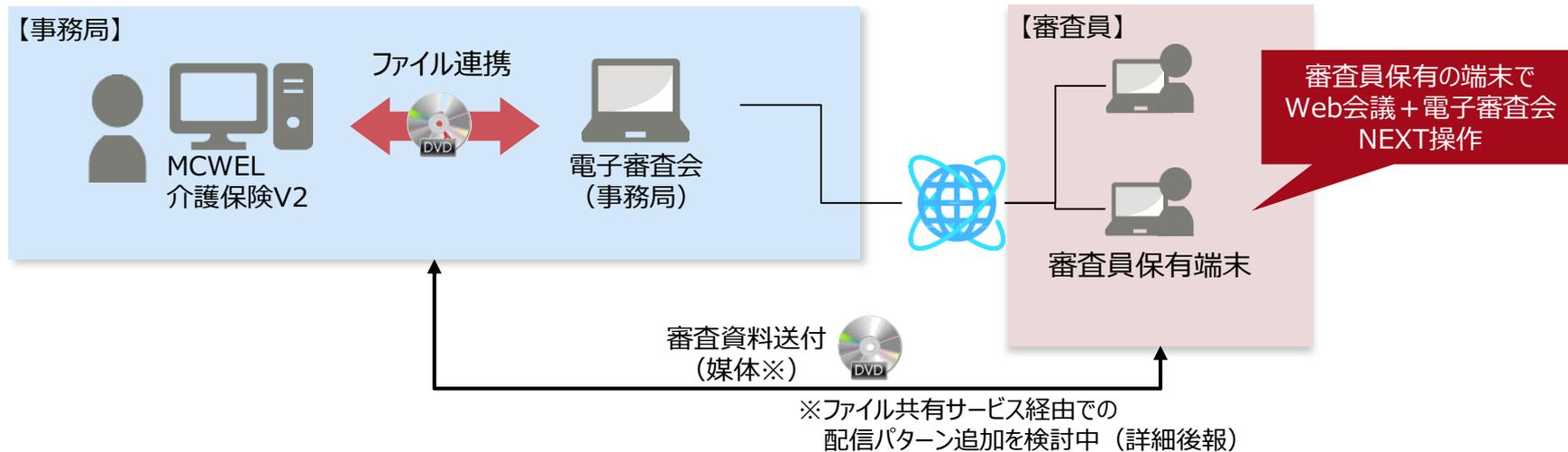
	顧客要件	審査員の端末利用形式	対応内容／留意事項
A	審査員はオフラインの端末で電子審査会NEXT+事前審査OPを利用するようになりたい。 (インターネットに繋がる審査員保有端末での審査会資料取扱いがNGの場合)	<b>端末2台利用</b> ①web会議：審査員保有端末で参加 ②電子審査会NEXT利用 <b>事務局からインターネット接続しない端末を配布+審査会資料を格納した媒体を都度送付</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>審査員配布用の端末が必要 (審査員人数分用意するか、一定台数にて貸出・回収を都度行う必要あり)</li> <li>審査会資料を格納した媒体を都度送付・回収が必要</li> <li>データの紛失対策としてセキュリティ便、流失対策についてはコピーガード機能の媒体にて対応</li> </ul>



## 2.2 リモート審査会の導入方式の選定について

### 事前審査OP配布方式における審査員保有端末の利用について

	顧客要件	審査員の端末利用形式	対応内容／留意事項
B	事務局からの端末配布はせず、審査員保有の端末で電子審査会NEXTおよびweb会議を実施したい。	端末 1 台（審査員保有端末） + <b>事前審査OP・審査会資料を格納した媒体を都度送付</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の電子審査会NEXTおよび事前審査OP導入団体様にて運用実績あり</li> <li>・審査員保有端末の動作保証OSはWindows10のみのため、審査員保有端末のOSによっては審査員配布用の端末も必要</li> <li>・事前審査OPおよび審査会資料を格納した媒体を都度送付・回収が必要</li> <li>・データの紛失対策としてセキュリティ便、流失対策についてはコピーガード機能の媒体にて対応</li> </ul>



## 2.2. リモート審査会の導入方式

### ③スタンドアロン方式：費用を抑え、素早く導入されたいお客様向け

概要	<u>電子審査会NEXTを各審査員に事前配布し、各審査員が職場や自宅のパソコンで電子審査会NEXTを使用する方式</u>
導入形式	<u>事務局端末のみで電子NEXTを実行</u> し、Web会議システムで審査員に画面を共有しながら審査会を進めます。
審査員によるシステム上での事前審査	不可（郵送やFAXでの紙面对応が必要）
お客様要望／効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・審査会を集合形式での実施を回避</li><li>・審査員の拠点が広範囲である</li><li>・個人情報を含んでいないとはいえ、インターネット環境に審査会情報を置くことに対する庁内調整が困難である</li></ul>
検討事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・電子審査会NEXTの操作ができるのは事務局側のみ</li><li>・事務局側Web会議用端末に審査会情報を配置する</li></ul>
主な積算項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・電子審査会NEXT（スタンドアロン）</li><li>・web会議サービス</li></ul>

# 2.2.1. リモート形式での審査会(フルリモート方式)

▶ 「電子審査会NEXT」をリモート審査会機能を用いて、審査員の端末に画面の情報を展開し、あたかも審査員の端末で動作しているように操作できます。

### 3 認定審査会

審査員は審査会場へ移動せず、Web会議とリモート審査会機能で審査会を行います。

審査員はリモート審査会機能を利用し画面操作にて被保険者の情報を確認し二次審査を行います。審査員が入力した情報は事務局に即座に共有されます。

全被保険者の二次審査完了後、事務局は二次審査結果について審査委員長の承認を得て、結果を介護保険事務処理システムへ登録します。

審査員が入力したデータは事務局に集約

保険者

事務局



#### 1 事前配信



事前審査OPとの組合せでの審査会も可能

#### 2 事前審査

審査員

審査員

審査員



居宅介護事業所

病院

自宅

## 2.2.1. リモート形式での審査会(フルリモート方式)

### フルリモート方式の特長

#### 1. 電子審査会CL/SV方式をリモートで実施

- 電子審査会システム全ての機能をネットワーク経由で利用可能にしたシステムです。審査員は、ネットワーク経由で電子審査会NEXTのCL/SV版機能を全て利用できます。
- 審査員が登録した二次審査の内容はリアルタイムで事務局に共有されます。また、審査員は自由に審査会システムを操作し、必要な情報を確認することができます。
- 審査結果の承認は、審査委員長にweb会議サービス上で制御をとって承認ボタンを押下していただくことでエビデンスとします。

#### 2. 審査会情報のセキュリティを確保

- 審査会で使用する審査会情報は、セグメント分割され守られたネットワーク内に設置することで、外部への不正な情報漏洩を防ぎます。
- サーバで動作している審査会システムの画面を審査員の端末へ共有しているのみであり、審査会情報が審査員へ送信されることは無いため、セキュリティ的にも安全です。

#### 3. 事前審査について

- 事前審査OPとセットで環境を構築することにより、審査員は、事前に審査会情報を確認して事前審査を行う事が可能です。
- 事前審査した情報を電子審査会の事務局側に取り込むことで、審査会開催時に事前審査の情報を確認することができます。

## 2.2.1. リモート形式での審査会(フルリモート方式)

### フルリモート方式の留意事項

#### 1. 環境構築について

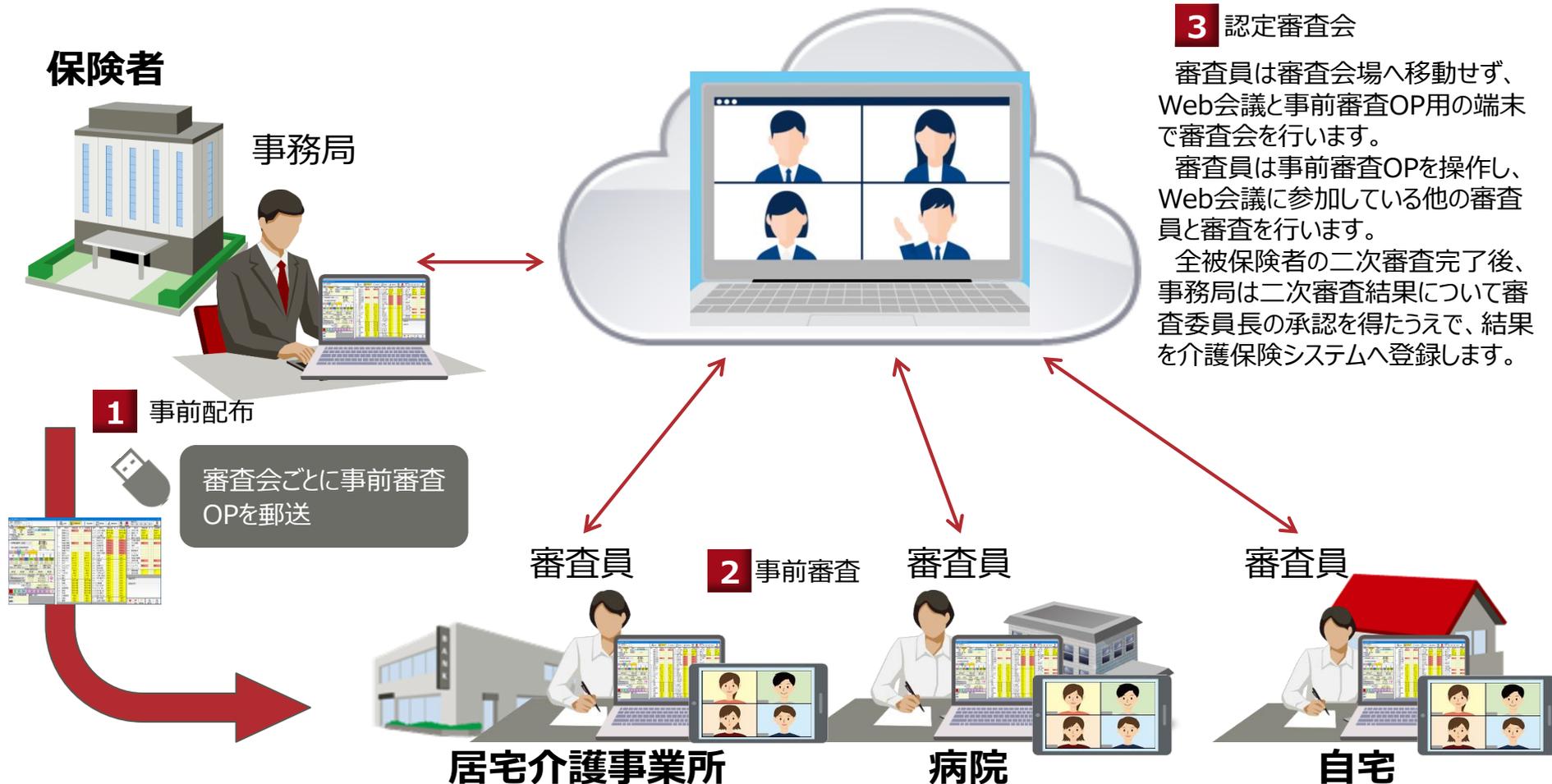
- リモート環境下で審査会を行うための環境構築が必要になります。庁内の情報系ネットワークの利用もしくは、データセンターをご利用いただくことを想定しています。
- 電子審査会を初めて導入する自治体様では、電子審査会システムの環境を構築する必要があります。また、電子審査会への切替え、審査員様の説明・電子審査会システムの操作研修が必要になります。
- 審査員の方が利用している端末を活用する想定となります（動作保証済OS：Windows10、MacOS、検証中：iPadOS）。  
審査員保有端末のバージョンによっては自治体様からの端末貸し出しについてもご検討ください。

#### 2. セキュリティ面での考慮

- 審査会情報は、セグメント分割された安全な環境に保管されます。また、審査会情報の保管、取り出しにおいても専用のネットワーク回線を経由して行う事を想定しており、機密性を高めております。自治体様の情報セキュリティ規約に照らし合わせた導入をご検討ください。

## 2.2.2 リモート形式での審査会(事前審査OP配布方式) FUJITSU

- ▶ 「電子審査会事前審査OP」を審査会資料の代わりに事前に配布します。審査会当日はWeb会議システムと事前審査OPを使用して審査会をおこないます。



## 2.2.2 リモート形式での審査会(事前審査OP配布方式)

### 事前審査OP方式の特長

#### 1. 事前審査OPとWeb会議を併用して審査会を実施

- 事前審査OPを事前に審査会情報とセットで審査員に配布し、Web会議システムと併用しながらリモートで審査会を実施します。

事前審査OP が手元にあるため、審査員はご自身で操作しながら審査会情報を確認できます。

#### 2. 審査員の操作性向上とセキュリティを確保

- 審査員の保有端末で電子審査会NEXTを操作させることに不安がある場合や、OSバージョンが動作保証外のOSバージョン（windows10以外）の場合には、自治体様から事前審査OPが動作する端末を審査員へ配布いただくことを想定しています。配布された端末にてオフラインで事前審査OPを動作させることで、審査会情報をインターネットに接続せずに審査会が行えます。
- Web会議システムと審査会用の端末を分けることで、他の審査員の表情を確認しながら審査会を実施できます。
- Web会議システムと審査会用の端末を分けずに審査員保有端末で事前審査OPを動作させる場合にも、事前審査OPおよび審査会資料を格納した媒体上で動作しますので、審査後に端末上にはデータは残らないため安心してご利用いただけます。

#### 3. 事前審査について

- 審査会情報とセットで事前審査OPを送付しておくことで、審査員は、事前に審査会情報を確認して事前審査を行う事が可能です。
- 事前審査した情報は、データとして保管されますので、審査員は審査会当日に事前審査した要介護度などの情報を確認できます。

### 事前審査OP方式の留意事項

#### 1. 必要に応じて審査員用の端末を用意

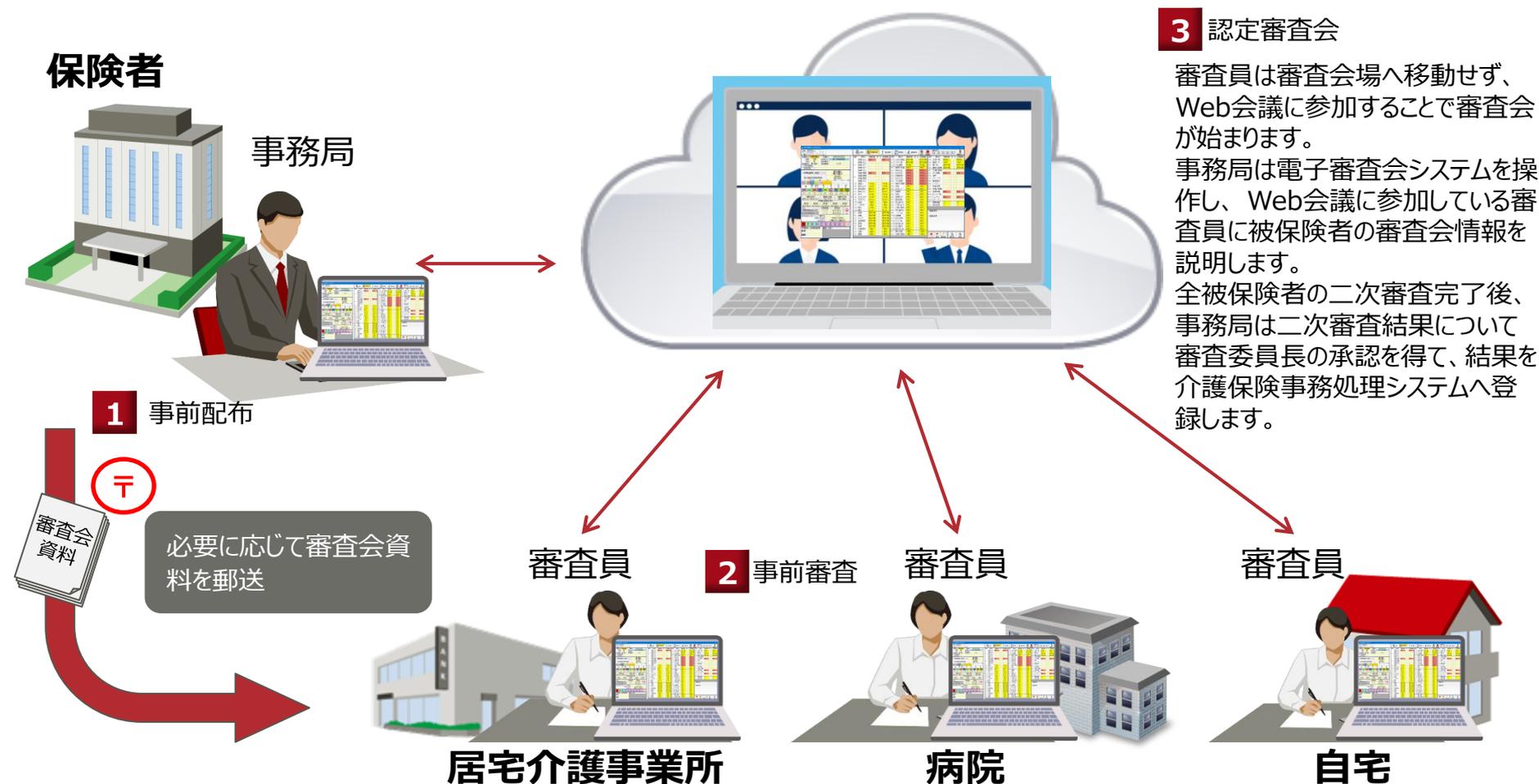
- 審査員の保有端末で電子審査会NEXTを操作させることに不安がある場合には、自治体様に事前審査OPが動作する端末を審査員数分ご用意いただき、配布いただくことを想定しています。
- 都度端末を回収し、他の審査会に流用することで、端末の台数を削減することも可能です。
- 審査員端末を流用する場合には、OSのバージョンがwindows10であることをご確認ください。左記以外の場合には、自治体様からの端末配布をご検討いただければと思います。

#### 2. セキュリティ面での考慮

- 審査会情報の配布にあたっては、審査会情報を媒体にコピーし、審査員へセキュリティ便などで郵送いただくことを想定しています。審査会後の回収のために返信用封筒等の同封等についてもご検討ください。
- 紛失、流失といった事故を防ぐため、媒体にはコピーガード、暗号化、暗証番号機能などを備えた媒体の用意を想定しています。

## 2.2.3 リモート形式での審査会(スタンドアロン方式)

- ▶ 「電子審査会NEXT」をWeb会議システムを使用して事務局の画面を共有します。審査会情報の事前確認が必要な場合、事前に審査員に資料を配布します。



## 2.2.3 リモート形式での審査会(スタンドアロン方式)

### スタンドアロン方式の特長

#### 1. 電子審査会NEXTの画面を共有しながら審査会を開催

- Web会議システムにて事務局側の電子審査会NEXT画面を共有することで、審査会の情報を審査員に共有しながら進めることができます。
- 審査会の結果は、事務局側にて電子審査会NEXTに登録し、介護保険システムに取り込みます。審査結果の承認は、審査委員長にweb会議サービス上で制御をとって承認ボタンを押下していただくことでエビデンスとします。

#### 2. 導入コスト、期間を最小化

- 事務局用の端末に、電子審査会NEXTとWeb会議システムを同居させ、Web会議システムに電子審査会システムの画面を共有することを想定しているため、事務局用の端末とネット環境があれば実現可能です。
- Web会議システムにおいては、審査員の保有端末を利用いただくことで端末導入コストを抑えることができます。

#### 3. 事前審査について

- 審査会資料を事前に紙で送付し、事前審査を行う事も可能です。ただし、送付した審査会資料は、返信用封筒を付けて送付するなど、後で回収する等の運用検討についてご留意ください。

## 2.2.3 リモート形式での審査会(スタンドアロン方式)

### スタンドアロン方式の留意事項

#### 1. 審査員が審査会システムを操作しない

- 審査員は、Web会議システムを通して審査会の情報を参照するため、電子審査会NEXTを操作することはありません。  
審査員が確認したい観点が発生した場合などは、審査会のなかでお伝えいただき、事務局が画面操作することを想定しています。
- Web会議システムを審査員の保有端末でご利用される場合には、Web会議システムに対応した端末であることをご確認ください。必要に応じて自治体様にてご用意いただくことをご検討ください。

#### 2. セキュリティ面での考慮

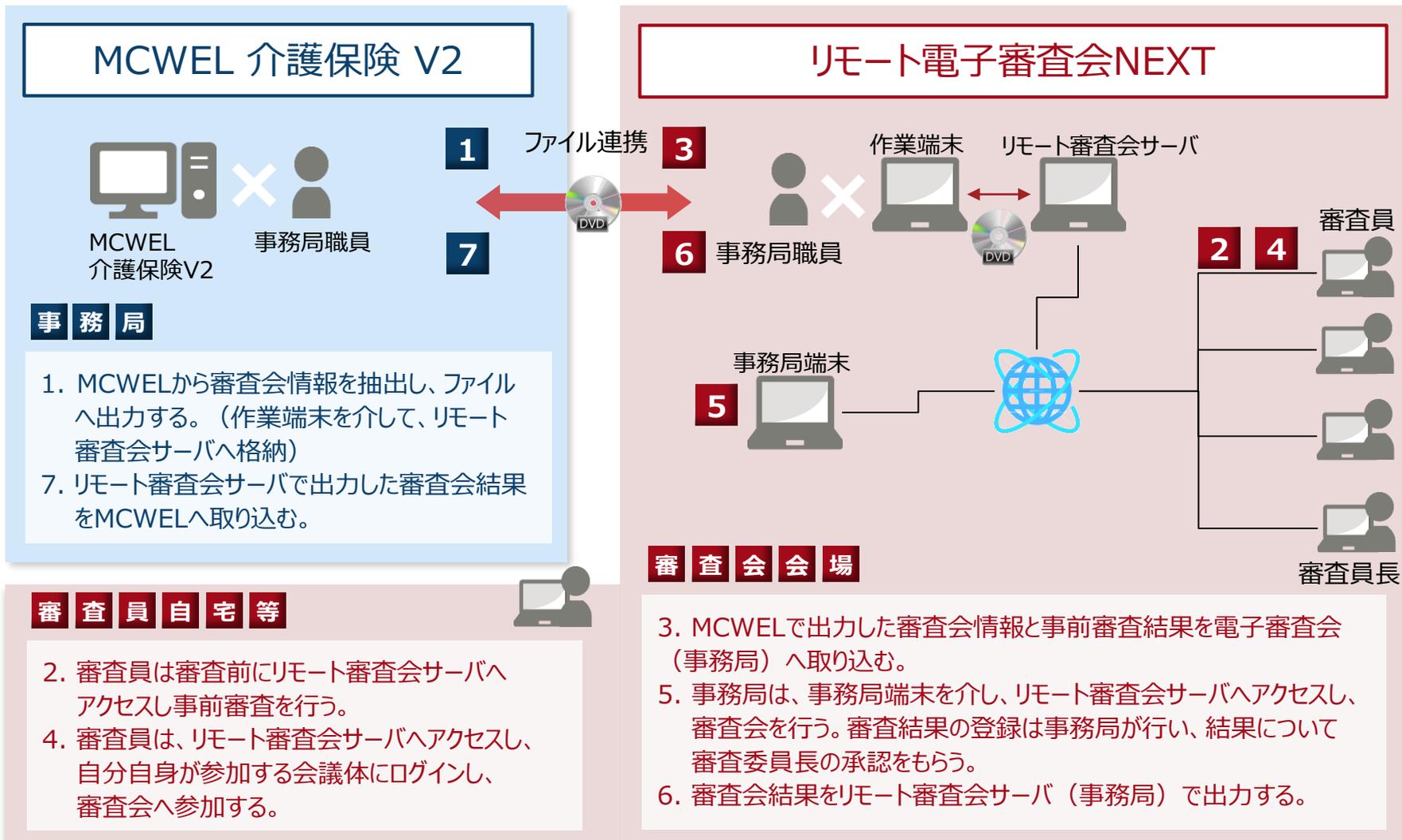
- Web会議システムにて画面を共有することになるため、審査会の情報が審査員の端末などに保管されたり、ネット回線上に流れることはありません。
- Web会議システムが動作する環境下に審査会の情報を保管することになります。個人情報が含まれていない認識ですが、自治体様のセキュリティ指針に沿ったご検討が必要です。

### 3. リモート審査会の運用



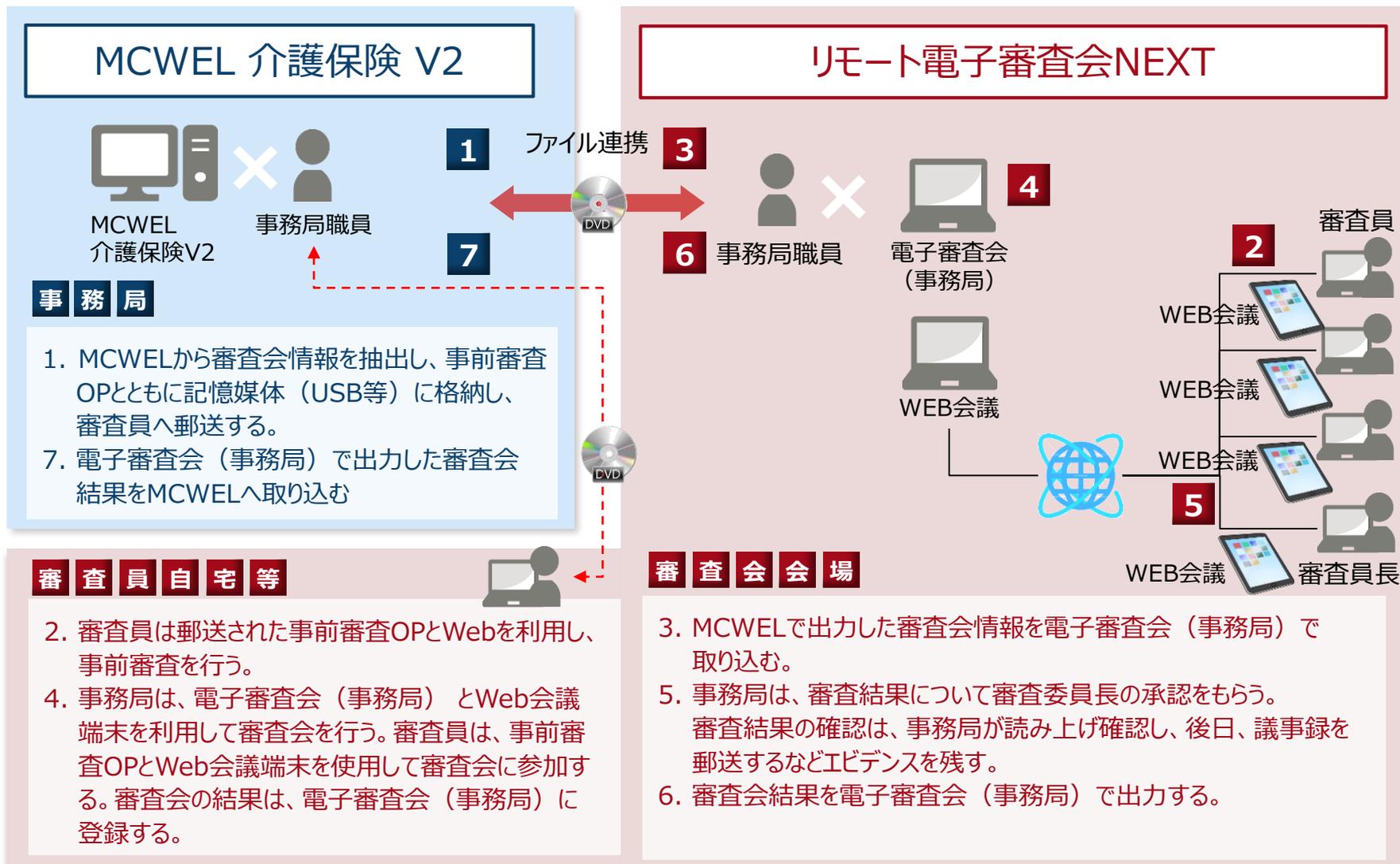
# 3.1. フリモート方式の運用 + 事前審査運用

▶ フリモート方式の運用を以下に示します。



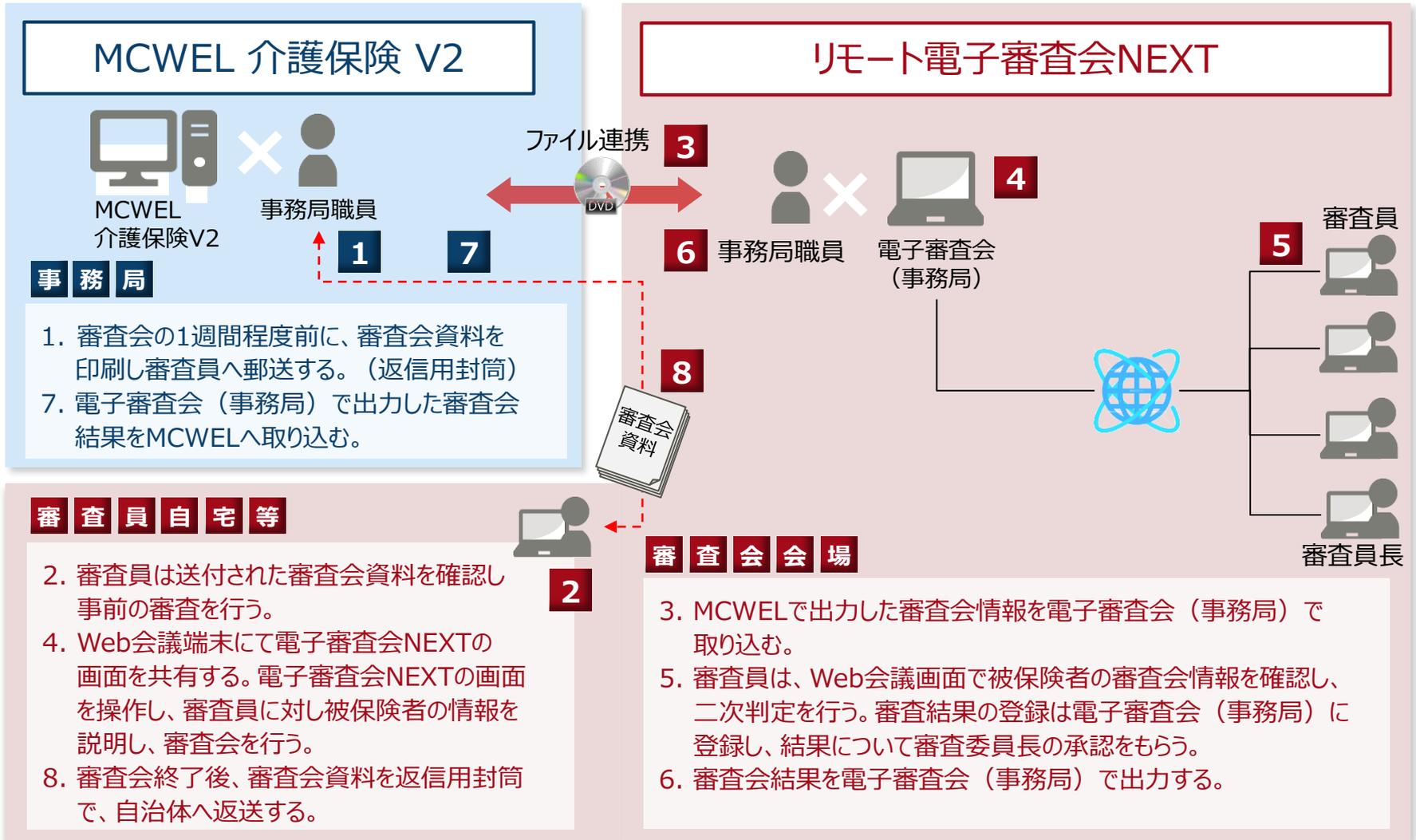
## 3.2. 事前審査OP配布方式の運用 + 事前審査運用

事前審査OP配布方式の運用を以下に示します。



# 3.3. スタンドアロン方式の運用 + 審査会資料配布運用

▶ 審査員の事前審査のため、審査会資料の配布が可能です。



## 4. リモート審査会のシステム構成



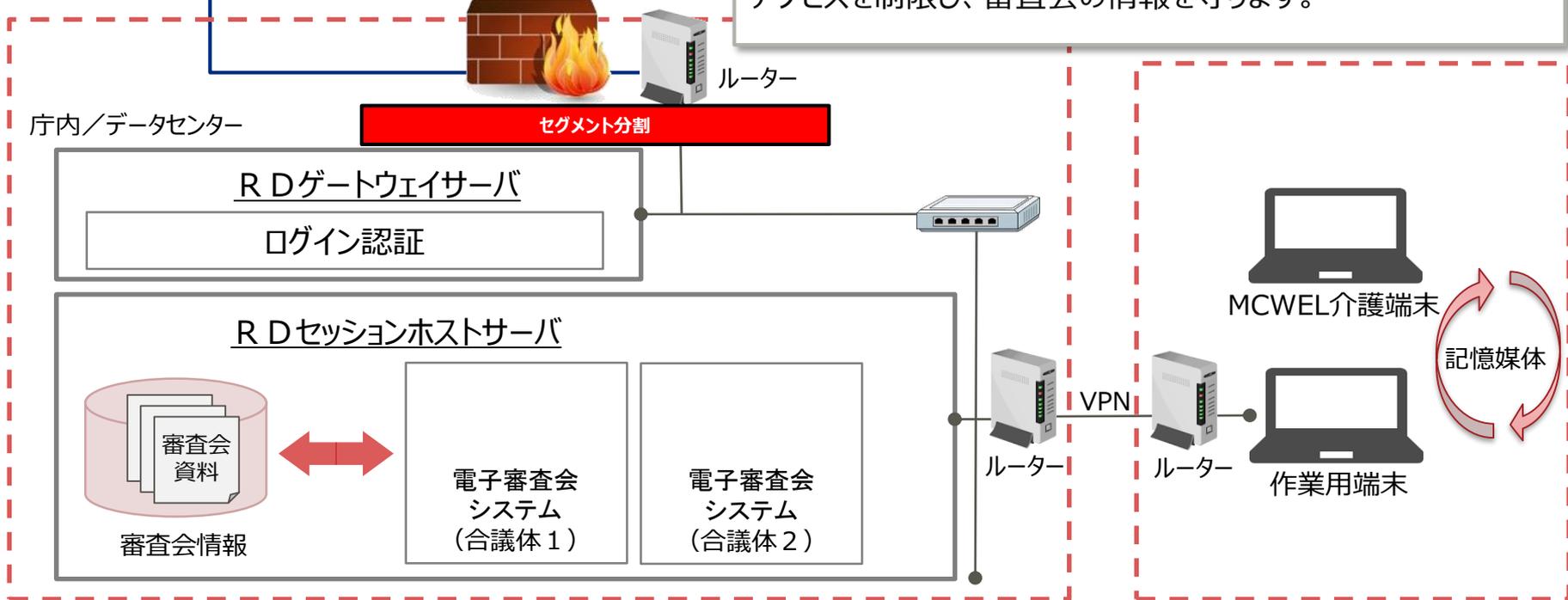
# 4.1. フルリモート方式のシステム構成

## 電子NEXTの全機能をネット上で実現したリモート審査会について



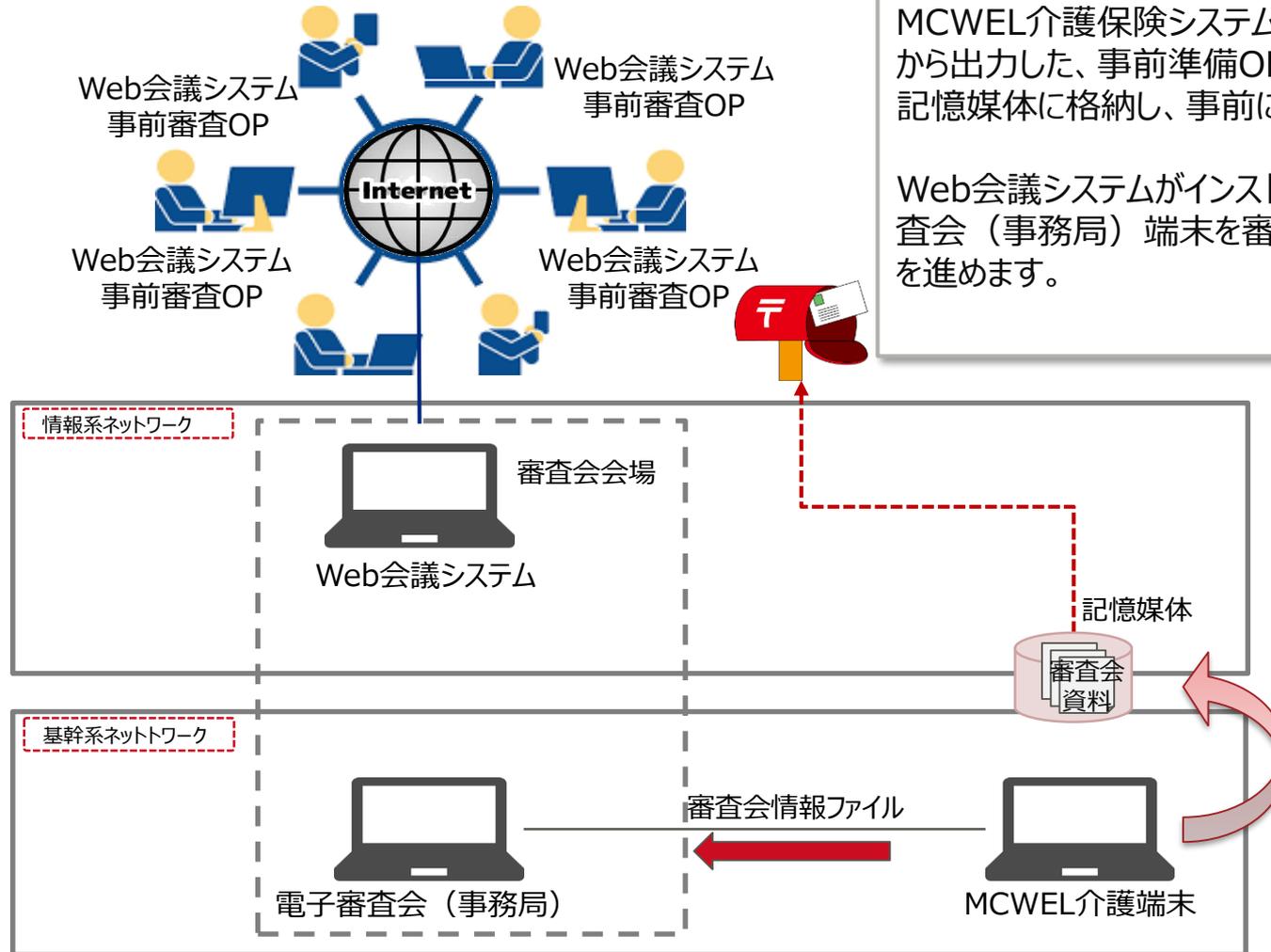
R Dゲートウェイサーバへログインした審査員は、ネットワーク上の電子審査会システムを使用して事務局により作成された合議体から審査会に参加します。

R Dゲートウェイサーバ、R Dセッションホストサーバは、外部ネットワークとは異なるセグメント上に分離され、F Wにて外部からのアクセスを制限し、審査会の情報を守ります。



## 4.2. 事前審査OP配布方式のシステム構成

### 事前審査OPの配布によるリモート審査会について

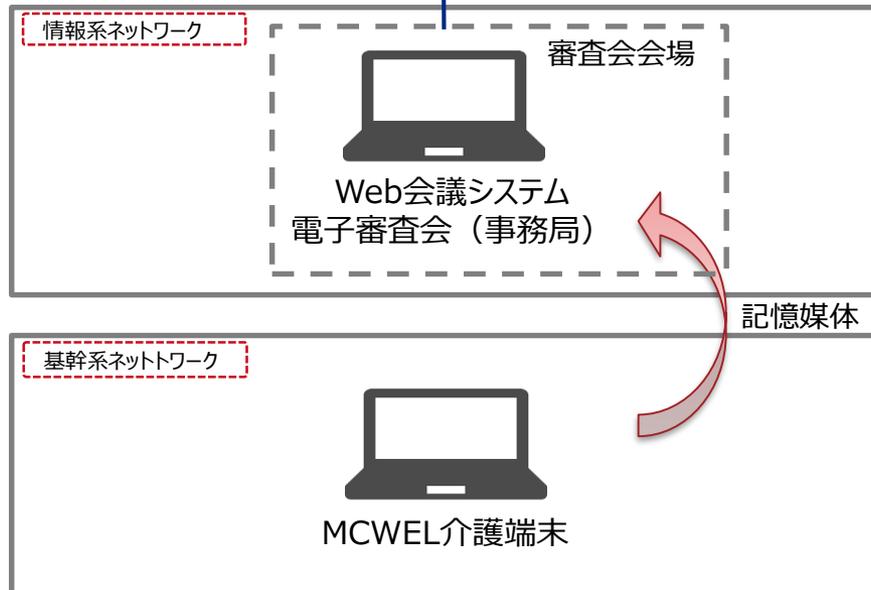


MCWEL介護保険システムの電子審査会事前準備から出力した、事前準備OPと審査会情報ファイルは、記憶媒体に格納し、事前に審査員に郵送します。

Web会議システムがインストールされた端末と電子審査会（事務局）端末を審査会場に併設し、審査会を進めます。

# 4.3. スタンドアロン方式のシステム構成

## スタンドアロン環境でのリモート審査会について



Web会議システム・電子審査会NEXTがインストールされた端末を審査会会場に設置し、審査会を進めます。

MCWEL介護保険端末と電子審査会NEXTとのデータ受渡しは、記憶媒体を使用して行う事になります。

審査会の承認においては、Web会議システムの操作権限を審査委員長に渡すことで、審査委員長が電子審査会システムの「承認ボタン」を押下できますので、本操作をもって承認とすることが可能です。

## 5. 想定される課題・懸念とその対策



# 5. 想定される課題・懸念とその対策

## リモート審査会における運用上の課題・懸念とその対策について

No	課題・懸念	内容	対策
1	【各方式共通】 審査会資料の情報取り扱いについて	web会議にて審査会を取り扱うことに対して懸念がある。個人情報の取扱はどのようになるか。	電子審査会NEXTで出力されるデータには <b>被保険者の氏名や住所などの個人情報に含まれていない／マスキングが施される</b> ため、「特定の個人を識別することのできる情報」は取り扱われません。
2	【各方式共通】 審査員の方が端末、ネットワーク回線を保有していない	審査員の方が、リモート審査会に参加するための端末やネットワーク回線を保有していない。	審査員の方がweb会議形式での審査会参加が困難な場合は、自治体様からの端末配布、あるいはリモートの合議体と集合形式による合議体を分けての運用等をご検討ください。
3	【フルリモート方式・事前審査OP配布方式】 審査員保有の端末利用について	審査員が保有する端末で利用できない場合はあるか。	電子審査会NEXTの動作確認済OSは以下です。 【フルリモート方式】windows10、MacOS (iPadOS動作確認中) 【事前審査OP配布方式】windows10  審査員保有の端末の環境が上記以外の場合は正常に動作しない可能性がありますので、必要に応じて自治体様から審査員への端末配布をご検討ください。

# 5. 想定される課題・懸念とその対策

No	課題・懸念	内容	対策
4	【事前審査OP配布方式】 事前審査用のモジュール及び審査会情報の郵送に関わるリスク	内容にはセンシティブな情報が含まれているため、審査員への郵送における、紛失、流失などのリスクへの対策はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各宅配業者が提供しているセキュリティサービスを利用することで、紛失に関わるリスクを軽減することが可能です。</li> <li>記憶媒体にコピーガード機能が備わったものを使用することで、ネット環境に流出することを防ぎます。</li> <li>記憶媒体に暗号化、暗証番号機能付きなどを利用することで、紛失等への対策を講じます。</li> </ul>
5	【フルリモート方式】 認定審査会資料の情報をパブリックなネットワーク環境に置くことに不安がある	個人情報にあたらなくても、内容にはセンシティブな情報が含まれているため、物理的に外部ネットワークと接続された環境に保管されることに不安がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット環境と同一ネットワーク上にはなりませんが、<b>分離されたセキュアなネットワーク下に配置することで情報漏洩などのリスクを回避</b>します。</li> <li>各自治体様のセキュリティポリシーにより審査会情報をインターネット環境下に保管出来ない場合には、事前審査OP配布方式による対応をご検討ください。</li> </ul>
5-1	-	-	<p>【ネットワークに対するセキュリティ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットに接続されているルータにて、グローバルIPからローカルIPに変換（NAT）することで、直接的に外部からの侵入を回避します。</li> <li>ルーターのFWにて、リモート審査会で使用するhttps以外のポートは全て塞ぐことで、https以外のポートを使った侵入を防ぎます。</li> <li>審査員の端末とリモート審査会サーバ間の通信は、SSL/TLSで暗号化された通信を行っており、通信の情報が外部からのぞき見されることはありません。</li> </ul>

# 5. 想定される課題・懸念とその対策

No	課題・懸念	内容	対策
5-2	-	-	<p>【操作者に対するセキュリティ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・リモート審査会は、ActiveDirectoryを構築しており、ドメインの承認を受けたユーザID以外はアクセスできません。</li><li>・審査員のIDに対しては、リモート審査会システムの起動以外の権限を許可しないため、審査員のID、パスワードが漏れてしまったとしても、不正アクセスやデータが漏洩することはありません。</li><li>・DosやDDos攻撃に対応するため、特定IDが複数回ログインに失敗した場合、IDを停止するなどの措置を講じています。</li><li>・wafなどの防御ソフトを導入することで、外部からの不正アクセスを防御することができます。</li></ul>
5-3	-	-	<p>【作業端末に対するセキュリティ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・作業端末とリモート審査会サーバ間は、回線事業者が提供する専用回線・閉域網（MPLS）を利用したIP-VPNで接続しており、外部からのアクセスや侵入することは出来なくなっています。</li></ul>



**FUJITSU**

shaping tomorrow with you